

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.3.0)

<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	(仮称)宮津福祉人材養成センター	階数	地上3F
建設地	京都府宮津市	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	100人
地域区分	S地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年2月 予定	評価の実施日	2015年12月15日
敷地面積	8,254 m <sup>2</sup>	作成者	内藤建築事務所
建築面積	1,560 m <sup>2</sup>	確認日	2015年12月15日
延床面積	3,423 m <sup>2</sup>	確認者	内藤建築事務所



**2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)**

BEE = 1.0 ★★★★★

**2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)**

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

**2-3 大項目の評価(レーダーチャート)**

**2-4 中項目の評価(バーチャート)**

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.8

**Q1 室内環境** Q1のスコア = 2.9

**Q2 サービス性能** Q2のスコア = 2.9

**Q3 室外環境(敷地内)** Q3のスコア = 2.5

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.2

**LR1 エネルギー** LR1のスコア = 3.8

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア = 2.9

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア = 2.7

<b>3 設計上の配慮事項</b>		
<b>総合</b>		<b>その他</b>
計画建物は宮津市景観計画の区域内にあり、基準に基づき周辺景観に調和する計画とするとともに、宮津湾に面する立地から、室内からの眺望にも配慮した配置計画とした。		
建物内においては、地域産木材の利用、自然採光を確保する中庭の設置、安全性や昼光制御が可能なバルコニーの設置などにより、入居者の生活の質が高められるよう配慮した。		
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
光庭やトップライト等、積極的に昼光利用設備を設置する一方で、建物周囲に庇を多く設けて、昼光制御へも配慮した。	居室の天井高さを2.5m以上とし、快適さを感じられる空間づくりに配慮した。 2.4.3電気設備: 非常用発電機を設けている。	エントランス部分の歩面に庇を掛け、建物内外の中間領域の形成に配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
太陽光パネルを設置し、自然エネルギーの積極的な利用に配慮した。	内装に地域産木材を利用し、環境に配慮した。	各項目における基準値をクリアし、敷地外環境に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される